

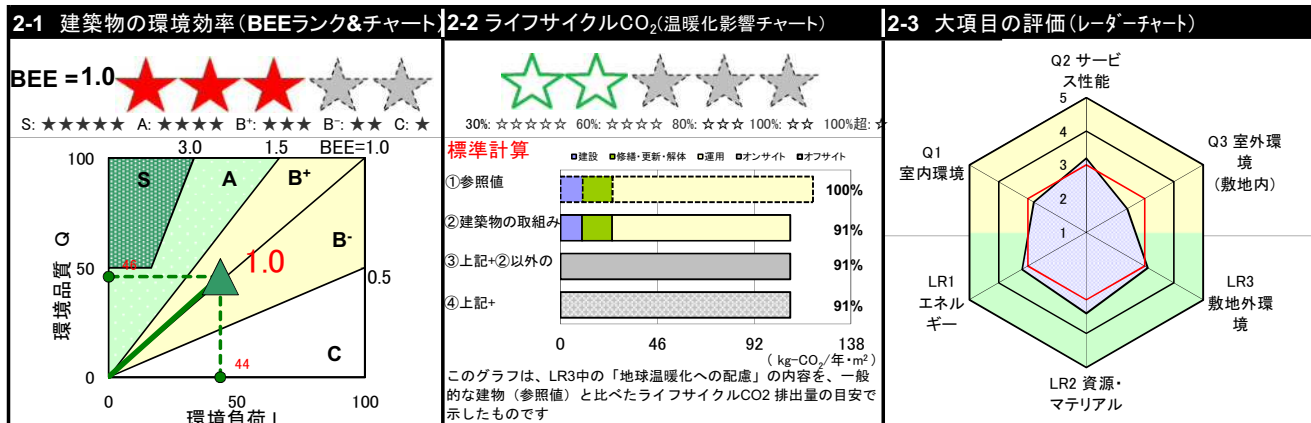
建築物名称	(仮称)新吉原林間学園
受付日	平成29年10月2日
建物所在地	富士市厚原字込野1619番1 外13筆
構造規模等	鉄骨造,木造／地上2階／延床面積4,753. 01平方メートル／新築
建物用途区分	学校、集会所、病院
建築主	静岡県知事 川勝平太
設計者	一級建築士事務所 株式会社 山下設計 佐藤利也
工事完了予定日	平成30年11月30日

CASBEE®-建築(新築)

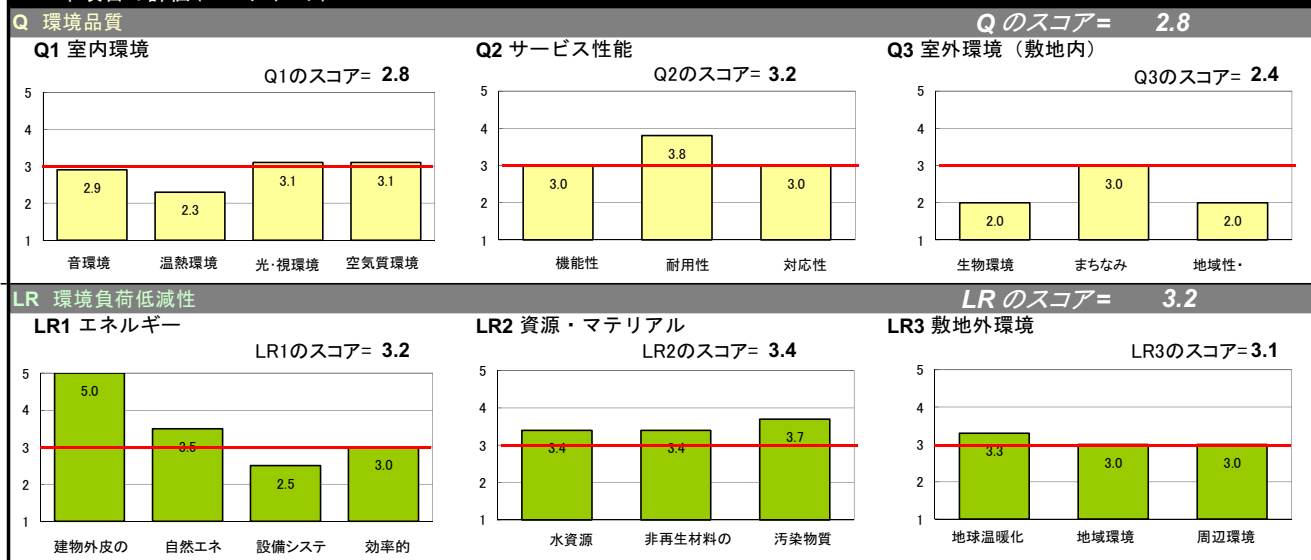
評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新吉原林間学園(仮称)	階数	地上2F
建設地	静岡県富士市厚原字込野1619番1	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	80 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	学校,集会所,病院,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年11月 予定	評価の実施日	2017年9月29日
敷地面積	16,404 m ²	作成者	株式会社山下設計
建築面積	3,094 m ²	確認日	
延床面積	4,753 m ²	確認者	



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合		その他
これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。 子どもにとって安全で安心な快適な環境をつくる。衝動的な行動による危険防止を目的とするため、窓の解放制限を行うことから、空調調和設備による快適性の確保を確実に。また各種省エネ設備の採用や地球環境の保護に配慮した材料選定、周辺環境への影響の低減を行う。		
Q1 室内環境 居室温度: 夏季26度、冬季22度を機械空調により確保。 換気量: 30m³/h・人を機械換気により確保。 照度: 室用途にあわせて、必要十分な明るさを確保。	Q2 サービス性能 主要設備の耐震グレードはAクラス、重要な設備は同Sクラスとする。 被災後の入所児童の滞在を想定し、受水槽の残水量監視、保安不可への非常用電源供給等を実施。	Q3 室外環境(敷地内) 建物高さを抑え、周囲への圧迫感を低減。 周辺の恵まれた自然環境としての景観に配慮し、彩度を抑えたアースカラーを基調とする建物外観の色彩計画とした。
LR1 エネルギー 断熱材および複層ガラスによる外皮負荷抑制。 断熱回収型ガス給湯器の採用。 LED照明の採用。	LR2 資源・マテリアル 節水・節湯器具の採用。 オゾン破壊係数ゼロの冷媒ガスの採用。	LR3 敷地外環境 浄化槽排気系統に脱臭装置を設置。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1. 建物概要

建物名称	新吉原林間学園(仮称)	BEE	1	BEEランク	B+	★★★
------	-------------	-----	---	--------	----	-----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.5 / 5	    	ふつつ 
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.0 / 5	    	ふつつ 
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.5 / 5	    	がんばろう 
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.7 / 5	    	がんばろう 
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4 点以上 	ふつつ 3 点以上  がんばろう 3 点未満 

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		内訳対応項目	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点	3.5
 ■室内環境対策 (①室温制御/②屋光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①外壁の断熱材をグラスウールt50として十分な断熱性能を有する。 ②特になし。 ③ブラインドまたはカーテンを設置。 ④躯体耐用年数: 65年 ④外壁の窯業系サイディングは、10年～15年で再塗装、25年で再塗装または張り替えが必要。 ④主要設備の更新期間は1年を想定。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤敷地の周辺の木々を参考に樹種を選定。 ⑥外観はアースカラーを基調とした色彩計画。 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率運用) ⑦外壁の断熱材をグラスウールt50として十分な断熱性能を有する。 ⑧トップライトによる自然エネルギーの利用。 ⑨LED照明の採用。潜熱回収型ガス給湯器の採用。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水・節湯器具の採用。 ⑫地下躯体部分における高炉セメントの採用。 ⑬発泡剤ODP=0の断熱材および冷媒ガスの採用。 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭省エネルギー対策と、高炉セメントの採用。 ⑮周囲への風通しを妨げないように建物を低層とした。	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 屋光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 屋光制御 Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制 LR-2 1 1.1 ⑪ 節水 1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減 2.1.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 2.1.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.1.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.1.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.1.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒 LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善		
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点	3.0
 ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯建築基準法に定められた50%増の耐震性を有する。 ⑰機械・配管の支持方法は耐震クラスAを採用。 ⑰非常用発電機を計画。	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点	2.5
 ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑱バリアフリー法の基準を満足。 ⑲鉄骨造とし、耐震壁によらない空間の自由さを確保。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑敷地内への見通しを確保し安全に配慮。	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり 3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上		
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点	2.7
 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤敷地の周辺の木々を参考に樹種を選定。 ⑥外観はアースカラーを基調とした色彩計画。 ■敷地外環境対策 (⑮温熱環境悪化の改善) ⑮周囲への風通しを妨げないように建物を低層とした。	Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 2 ㉒ まちなみ景観への配慮 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 LR-3 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善		